

## 調 査 書

多伎陶石鉱山調査については、昭和56年5月頃に発見以来現在に至るまで、島根県立工業技術センター資源科等の協力を受けながら、当社資材課と協同調査、試験、試作等を実施して現在に至ったものであります。従って本調査書にはその経緯、経過、試験成績等をまとめ鉱山の調査書とする。

表 題	多伎陶石鉱山鉱床調査。																																																											
調 査 場 所	簸川郡多伎町口田儀1702-1番地他8筆地域内。																																																											
調 査 期 間	昭和56年5月より平成11年現在も継続中																																																											
調 査 者	昭和陶業株式会社・資材課・（調査協力者・島根県立工業技術センター資源科）																																																											
調 査 項 目	*地質踏査 *X線解析 *鉱質分析 *粉碎試験 *化学分析 *製品試験 *その他																																																											
1 位 置	本鉱床の中心部は簸川郡多伎町口田儀中郷部落の東北距離約2.2km標高290mの山陵に露出している（別紙位置図参照）																																																											
2 地 質	本陶石は中新世久利層の凝灰岩及び流紋岩ないし石英安山岩からなり、泥岩を貫く貫入岩体として産する。																																																											
3 鉱 石	<p>ア 鉱物組成</p> <p>鉱物組成は石英+セリサイトを主として、一部にはパイロフェライト及びカオリンが含まれています。又中には黄鉄鉱の含有する部分もあります。 （島根県工業技術センター資源科において分析されたもの。1983年12月、20号に発表されている。）</p> <p>イ 成分</p> <p style="text-align: center;">化 学 組 成</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">試料名</th> <th>SiO<sub>2</sub></th> <th>Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub></th> <th>TiO<sub>2</sub></th> <th>Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub></th> <th>CaO</th> <th>HgO</th> <th>K<sub>2</sub>O</th> <th>Na<sub>2</sub>O</th> <th>Ig. loss</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No 1</td> <td>76.7</td> <td>15.78</td> <td>0.36</td> <td>0.82</td> <td>tr</td> <td>0.07</td> <td>3.4</td> <td>0.26</td> <td>4.23</td> </tr> <tr> <td>No 2</td> <td>76.31</td> <td>15.37</td> <td>0.59</td> <td>1.64</td> <td>tr</td> <td>0.07</td> <td>2.90</td> <td>0.60</td> <td>2.36</td> </tr> <tr> <td>No 3</td> <td>78.50</td> <td>15.46</td> <td>0.50</td> <td>0.40</td> <td>0.05</td> <td>0.05</td> <td>0.38</td> <td>0.51</td> <td>3.06</td> </tr> <tr> <td>No 4</td> <td>79.3</td> <td>15.95</td> <td>0.54</td> <td>0.57</td> <td>tr</td> <td>0.07</td> <td>2.06</td> <td>0.57</td> <td>2.42</td> </tr> </tbody> </table>										試料名	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	HgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	Ig. loss	No 1	76.7	15.78	0.36	0.82	tr	0.07	3.4	0.26	4.23	No 2	76.31	15.37	0.59	1.64	tr	0.07	2.90	0.60	2.36	No 3	78.50	15.46	0.50	0.40	0.05	0.05	0.38	0.51	3.06	No 4	79.3	15.95	0.54	0.57	tr	0.07	2.06	0.57	2.42
試料名	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	HgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	Ig. loss																																																			
No 1	76.7	15.78	0.36	0.82	tr	0.07	3.4	0.26	4.23																																																			
No 2	76.31	15.37	0.59	1.64	tr	0.07	2.90	0.60	2.36																																																			
No 3	78.50	15.46	0.50	0.40	0.05	0.05	0.38	0.51	3.06																																																			
No 4	79.3	15.95	0.54	0.57	tr	0.07	2.06	0.57	2.42																																																			
ロ 鉱石の高比重	株式会社栗本鉄工所試験室においての試験結果比重1.5と判明した。																																																											
ハ 耐火度	一般的に耐火度はSk20~28番であるが、部分的にSk18~20番程度の所もあ																																																											

4 調査項目についての内容

った、これらは石英が少なくセリサイトが多く含まれた所に、このような現象が良く見受けられた。

1) 地質踏査について。

本開発地域周辺は、中新統の分布域で田儀突出部と呼ばれ、中新統の基盤岩が日本海側にせり出すような分布を有するため、中新統の陸上分布域は相対的に狭くなっている。田儀突出部は久利層酸性火山岩類が卓越しており、本鉱床母岩はセリサイトや緑泥石を生じ、あるいは珪化作用を受け、しばしば黄鉄鉱を伴う変質帯を形成している。(詳細については島根県立工業技術センター研究報告第20号、1983年12月発刊「壱川郡多伎町田儀陶石鉱床について」に記載されている)。

2) 鉱質について。

本陶石鉱床の鉱質は、上記変質帯の中にあつて、流紋岩及び凝灰岩の熱水成非金属鉱床であり、セリサイト-石英からなる白色岩が、一定の大きさをもって産する岩体をいうこれらには、少量のパイロフェライトやカオリンを含んでいるところがある。

3) 成分(化学分析結果)について。

上記に記載したとうり。

4) X線分析について。

別紙X線分析像を添付

5) 鉱量について。

昭和56年頃より昭和63年2月までの間、鉱床踏査、ボーリング、トレンチ調査等いろいろな角度より調査した結果、鉱量は150万t以上有るものと推定した

6) その他

当社では粉碎試験及び製品試験等においては、昭和61年度島根県技術改善費補助事業の助成を受けて、いろいろな角度から試験をお行い、その経緯等を工業技術島根に掲載した実績もある。